

⑪實用新案出願公開

昭62-4212

④公開 昭和62年(1987)1月12日

M-6671-3B
2119-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

②出 願 昭60(1985)6月25日

⑦代理人 弁理士 松丸 国雄

明 細 書

1. 考案の名称

コンパクト容器における蓋の係合構造

2. 実用新案登録請求の範囲

下蓋に上蓋を開閉自在に装着せしめる構成において、前記下蓋の一側縁中央部に□状の切欠凹部を形成し、該切欠凹部の両側壁面に係止孔を穿設すると共に前記上蓋の一側縁に前記切欠凹部の両側壁面に夫々接合する2個の突起を下向きに突設し、該突起に貫設した軸孔並びに前記係止孔にピンを嵌入係合してなるコンパクト容器における蓋の係合構造。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本案は上蓋を簡便且つ体裁良く装着し得るようにした樹脂製コンパクト容器における蓋の係合構造に関する。

従来技術

従来のコンパクト容器の多くは下蓋の一端から他端に亘つて貫通している枢軸上に上蓋を装

(1)

新
理
士

着する構造からなっており、上蓋の取付けが煩雑で作業が面倒であると同時に前記枢軸の両端部が外側から見えるようになり体裁的にも好ましいものではない。

考案が解決しようとする問題点

本案は上蓋の支軸を容器の外側に露出させずに体裁良くしかも簡便に上蓋の組込みを可能にした蓋の係合構造を提供しようとするものである。

問題点を解決するための手段

本案は蓋の組立が簡便に行えると同時に体裁良好な容器が得られる点に特長を有し、下蓋に上蓋を開閉自在に装着せしめる構成において、前記下蓋の一側縁中央部に口状の切欠凹部を形成し、該切欠凹部の両側壁面に係止孔を穿設すると共に前記上蓋の一側縁に前記切欠凹部の両側壁面に夫々接合する2個の突起を下向きに突設し、該突起に貫設した軸孔並びに前記係止孔にピンを嵌入係合してなる構成を要旨とするものである。

外里上

実施例

以下本案の詳細を図面に示す実施例について説明すると、1は下蓋、2は上蓋、3は下蓋1の一侧縁中央部に形成した切欠凹部であつて、両側壁面3'に係止孔4を穿設する。5は上蓋2の一侧縁に下向きに穿設した2個の突起であつて、前記切欠凹部3の両側壁3'に夫々接合するように適度の間隔を介して突設されている。而してこの突起5には夫々軸孔6が貫設されており、第1図及び第2図の如く、前記軸孔6にスプリングピン7が埋着されており、スプリング7aの弾力で出沒可能な短軸7bが前記係止孔4に係合せしめる構造と、第3図及び第4図に示す如く、ピン8を前記突起5の内側から軸孔6及び係止孔4に押入せしめる構造があり、いずれもスプリングピン7或いはピン8を支軸として上蓋2が開閉方向に回動可能となるものである。

考案の作用、効果

本案は叙上の如く、下蓋1の一侧縁中央部に

(3)

不
理
士

口状の切欠凹部 3 を形成し、該切欠凹部 3 の両側壁面 3' に係止孔 4 を穿設すると共に上蓋 2 の一側縁に前記切欠凹部 3 の両側壁面 3' に夫々接合する 2 個の下向きの突起 5 を突設し、該突起 5 に軸孔 6 を貫設し、そして第 1 図及び第 2 図の如く該軸孔 6 にスプリングピン 7 を埋着した場合は一方のスプリングピン 7 を一方の係止孔 4 に嵌入し、他方のスプリングピン 7 を圧縮した状態で突起 5 を切欠凹部 3 の他方の側壁面 3' に接合せしめるとスプリングピン 7 の短軸 7 b がスプリング 7 a の弾力で自動的に係止孔 4 に嵌入し、又第 3 図及び第 4 図の構造の場合は前記突起 5 を切欠凹部 3 の両側壁面 3' に夫々接合した状態で該切欠凹部 3 のスペースを利用してピン 8 を突起 5 の内側から軸孔 6 及び係止孔 4 に嵌入すればよく、いずれの構造にあつても上蓋 2 の組込が簡便にでき、しかもスプリングピン 7 又はピン 8 は容器の外側に露出せず体裁的にも良好な容器が得られる等の利点を有するものである。

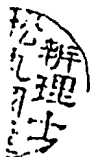
(4)

4. 図面の簡単な説明

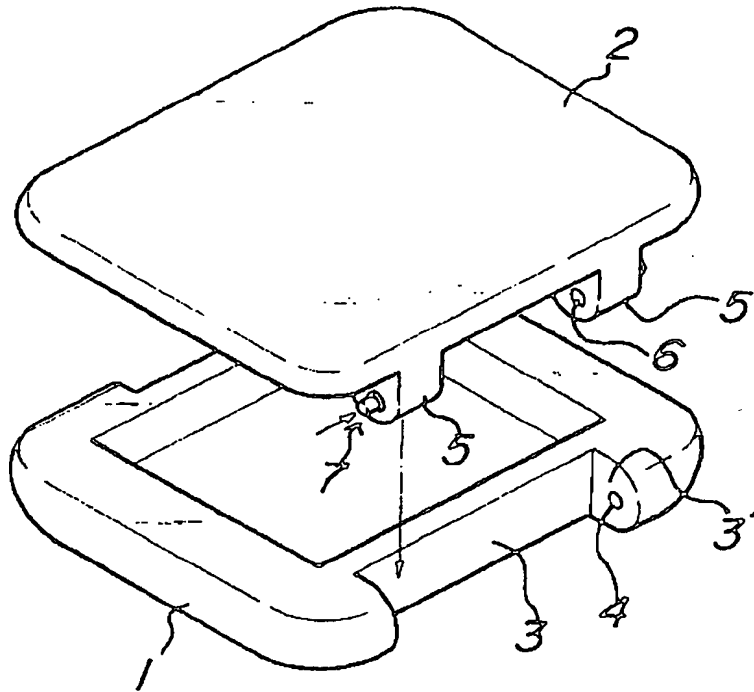
図面は本案の実施例を示し、第1図は下蓋と上蓋を分離した状態の斜視図、第2図は閉蓋状態における本案要部の縦断面図、第3図は他の実施例における下蓋と上蓋を分離した状態の斜視図、第4図は閉蓋状態の同要部縦断面図である。

1…下蓋、2…上蓋、3…切欠凹部、4…係止孔、5…突起、6…軸孔、7…スプリングピン、8…ピン。

代理人、弁理士 松丸 國雄

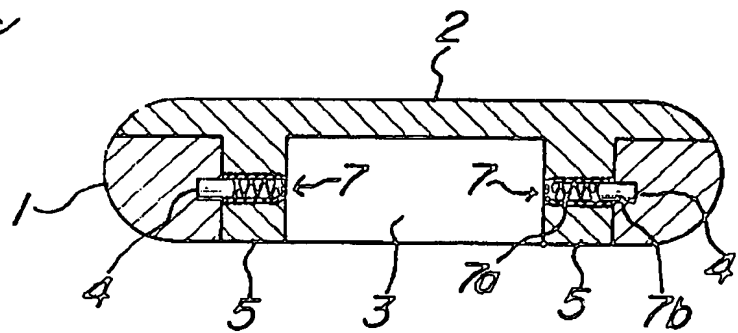


第 1 図

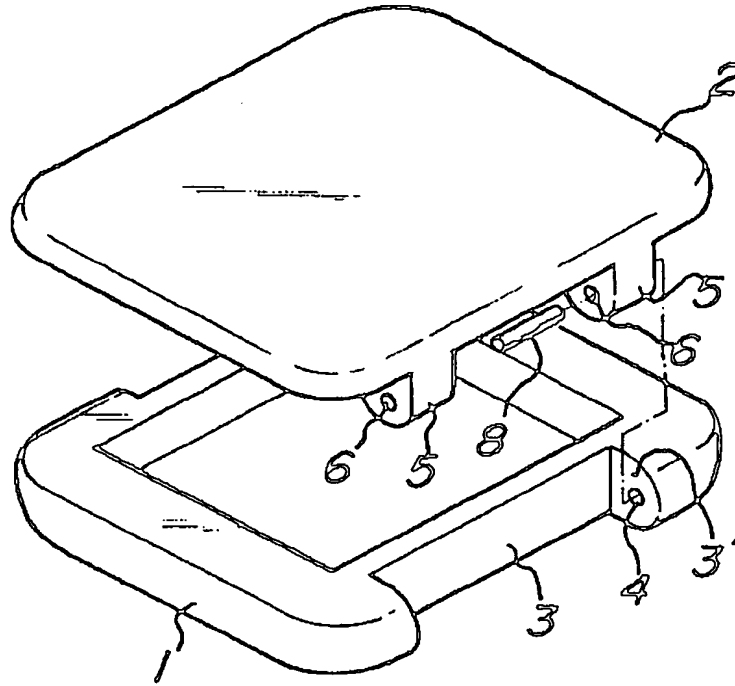


- 1 … 下蓋
- 2 … 上蓋
- 3 … 切欠凹部
- 4 … 係止孔
- 5 … 突起
- 6 … 軸孔
- 7 … スプリングピン
- 8 … ピン

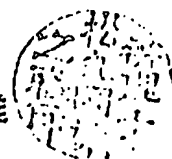
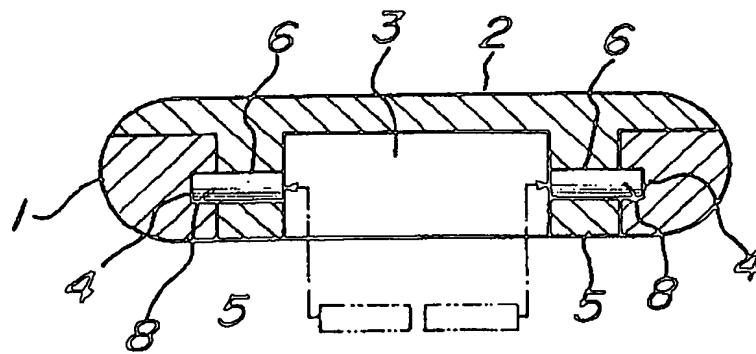
第 2 図



第 3 圖



第 4 圖





実 用 新 案 登 録 願

昭 和 5 6 年 / 月 1 4 日

特 許 庁 長 官 殿

1. 考 案 の 名 称 ^{フリガナ} ウェットティッシュ ^{シュウケヨウキ} 収納容器

2. 考 案 者

^{フリガナ} 住 所 (居所) ^{カシカ ニシシコ 17} 東京都葛飾区西新小岩 3 ~ 20 ~ 8
^{フリガナ} 氏 名 ^{カシカ} 株式会社 葛飾プレス工業所 内
^{イワ モト ヨウ イチ} 岩 本 陽 一

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 ^{カシカ ニシシコ 17}
^{フリガナ} 住 所 (居所) ^{カシカ} 東京都葛飾区西新小岩 3 ~ 20 ~ 8
^{フリガナ} 氏 名 (法人にあっては名称) ^{カシカ} 株式会社 葛飾プレス工業所
^{フリガナ} 氏 名 (および代表者の氏名) 代表者 ^{カシカ} 松 岡 ミ チ ⑧
TEL 03 ~ 697 ~ 5176

4. 添付書類の目録

- (1) ~ 明 細 書
- (2) ~ 図 面
- (3) 願書副本
- (4) (

- 1 通
- 1 通
- 1 通

通 達



831

56 003581

118795

明 細 書

1. 考案の名称 ウェットティッシュ収納容器

2. 実用新案登録請求の範囲

蓋体が容器内周面と密着状態に挿入嵌着可能なるパッキン部が設けられた挿入部を有し、作用部を有する把手が支軸によって蓋体の外周部に枢支され、又、蓋体の上面にはウェットティッシュ取り出し孔が穿設され、その取り出し孔を開閉可能な上蓋が設けられた事を特徴とするウェットティッシュ収納容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、ウェットティッシュの収能容器に係る。従来より、ウェットティッシュを取り出し口より順次取り出し可能な収納容器は使用されている。しかし、そのウェットティッシュの収納容器は、ティッシュに含まれている湿度が乾燥しないよう密封容器たる事が条件である。従来容器に於いて、蓋体は容器へ密封嵌着されている為に、ウェットティッシュの再充填の時など、容易に蓋体を容器より取る事が困難であった。又、蓋体を容

易に取り外し可能なものは、即ち、密封が完全でないものが多かった。

本考案は、以上の点を改良すべく考案されたもので、蓋体をテコの作用により容易に取り外し可能にしたものである。以下、その実施例を図によって説明する。

容器 1 は、有底筒状体であり、蓋体 2 は、容器 1 へ嵌挿可能なリングパッキン 3 の溝部 4 が穿設された挿入部 5 がある。又、挿入部 5 より上方は、支軸 6 によって枢支される把手 7 が設置可能な段部 8 がある。把手 7 を持ち上げた際、支軸 6 より先の作用部 9 が下降可能な孔部 10 が穿設されている。尚、蓋体上面には、更にウェットティシュー取り出し孔 11 を開閉する上蓋 12 が設けられている。

本考案、ウェットティシュー収納容器は、以上構造の為、蓋体 2 と容器 1 は、挿入部 5 のリングパッキン 3 によってシールされ、ティシューに含まれた湿度が蒸発する事が非常に少なくなる。又、再充填の際など、容器 1 より蓋体 2 を取る時は

容器 1 を保持して、把手 7 を引き上げれば、作用部 9 は支軸 6 を支点として孔部 10 より降下し、容器の上淵部 13 に衝突する。更に把手 7 の引き上げを行なえば、蓋体 2 は容器より、容易に抜け出るものである。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は、本考案実施例の分解斜視図。第 2 図は、本考案実施例の正面断面図。

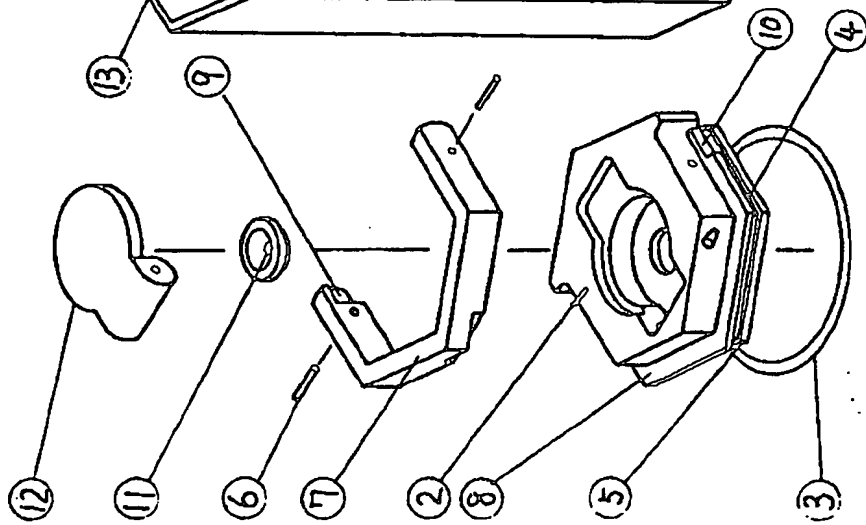
1 ～ 容器 2 ～ 蓋体 3 ～ リングパッキン 4
～ 溝部 5 ～ 挿入部 6 ～ 支軸 7 ～ 把手 8 ～
段部 9 ～ 作用部 10 ～ 孔部 11 ～ 取り出し孔
12 ～ 上蓋 13 ～ 上淵部

実用新案登録出願人

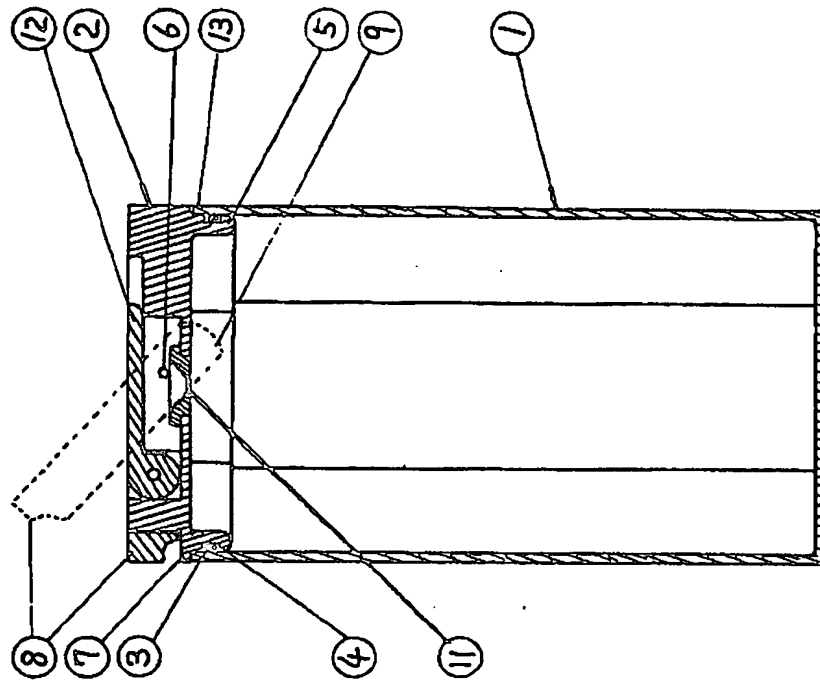
株式会社 葛飾プレス工業所

図 面

第 1 図



第 2 図



発明者 佐々木 隆夫
代理人 株式会社 隆飾プレス工業所

1118795

5.3.1

THIS PAGE BLANK (USPTO)